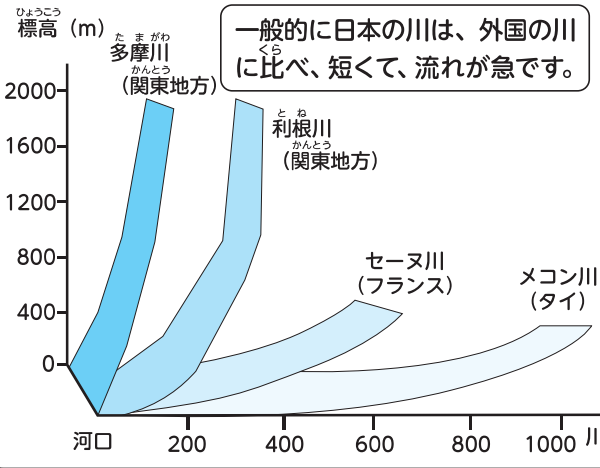


(2) 水源を確保する

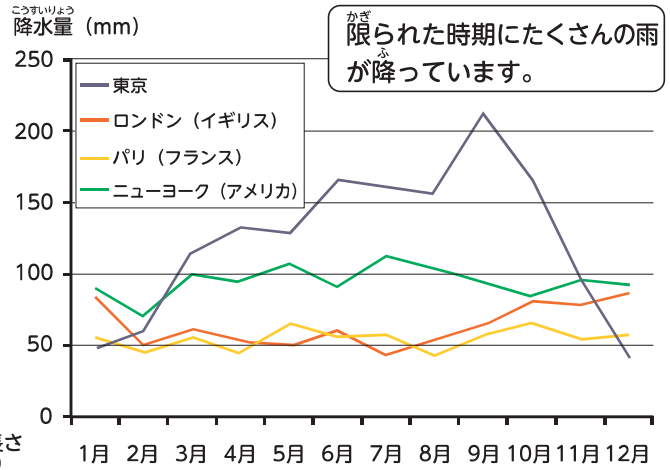
水が足りなくならないように、水道局ではどのような努力をしているのでしょうか。

●なぜダムが必要なの？

●日本の川と外国の川のちがい



●主な都市の毎月の降水量



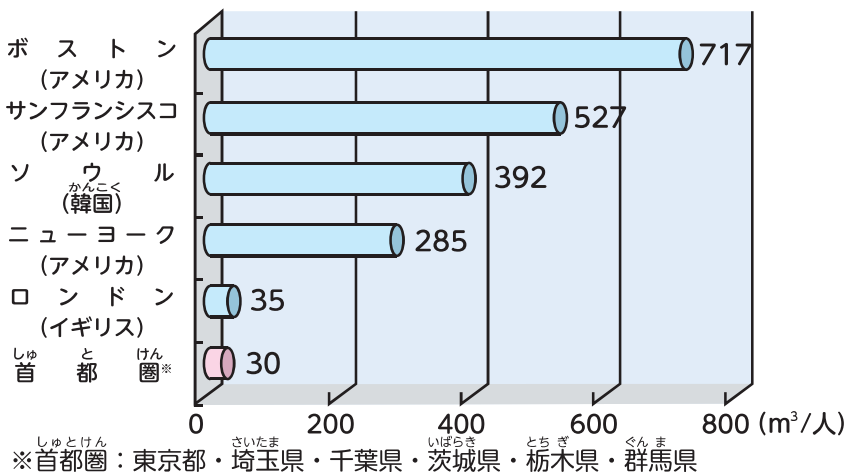
水道局の人の話



日本の川は、短くて流れが急なので、降った雨水は川からすぐに海に流れ出てしまいます。

また、雨は、梅雨と台風の時期（6月から10月まで）にたくさん降っており、雨の多いこの時期に水をためなければ、水を必要とする時期に水が足りなくなってしまうのです。そのため、ダムをつくり、川の水をしっかりとためておく必要があるのです。

●外国の都市の一人当たりのダム貯水量



外国の都市に比べて、一人当たりのダムの貯水量が少ないんだね。大丈夫なのかな？



水道局の人の話



日本は、外国の都市と比べてダムでためることができる一人当たりの量が少ないため、水が足りなくなってしまう心配があります。必要な水をいつでも使えるようにするために、現在もダムをつくり、水源の確保を進めています。

●ダムをつくる

水道局の人の話



戦後、急激に東京の人口が増えたため、水不足が起こるようになりました。昭和39(1964)年の東京オリンピックの頃には、じゃ口から何時間も水が出なくなり、お風呂や学校のプールもほとんど使えないくらい大変な状況になりました。このため、東京都は安定して水を使えるように、まわりの県や国など、たくさんの人と協力してダムをつくってきました。



ダムをつくるには、
どんな苦勞が
あったんだろう？

水道局の人の話



ダム建設のために湖の底にしずんだ村もあります。先祖の代から住んでいた人たちは、昔から住みなれた土地をはなれたくありませんでした。でも、都民のみなさんのために、土地をはなれる決心をしてくださいました。

水道局の人の話



ダムの建設現場で働く人は、山にこもって、何日も家に帰らず、ダムづくりに取り組みました。工事のための重い機材を運ぶのもたいへんでした。きけんな作業もたくさんありました。

小河内ダム(貯水池)は、東京都の水道専用ダムです。水道専用ダムとしては日本最大の貯水量です。令和2(2020)年で、完成から63年となります。多くの人たちの協力や苦勞があったおかげで、いつでもじゃ口から水が出てくるのです。



▲バケツで水をもらう子ども(昭和39(1964)年)



▲小河内ダム建設のために湖の底にしずんだ村



▲現在の小河内ダム(貯水池)



▲じゃ口から水を飲む子供たち(現在)